

行政から NPO等への研修

鳥取県では、「鳥取県職員の人材育成、能力開発に向けた基本方針」に基づき、職員をNPO等に派遣し、その活動を実際に体験する研修を取り入れています。研修の目的や成果について、職員人材開発センター所長の山根延通さん、係長の山本一志さんに話を聞きました。

—体験研修のねらいについて教えてください。

(山根さん)

公務員はなかなか現場に出ないというイメージがある中、県民との「協働」を実現するための手法のひとつとして、特に32歳という中堅職員が直接現場に出かけて行って、地域で活躍するNPOの皆さんと一緒に活動することで、何をしようとしているのかを県民目線で体験してもらいます。このような体験型の研修は、これまであまりありませんでした。

(山本さん)

この研修は、本年度で4回目になります。32歳という係長への昇任前になりますが、自分のキャリアを考える節目の時期でもあるといえます。研修期間は原則3日間で、研修先は職員が自分で探し、受け入れ交渉をして決めます。これも研修の一環です。

—研修の成果や手応えとして、どのように感じていますか。

(山本さん)

「広い視野が持てるようになった」「NPOの実情がよく分かった」「あまり地域に出ていくことがなかったが、意外に良かった」など肯定的な意見が多く、受け入れ先からも「来年もぜひ来てください」という声をいただいています。また、「これをきっかけに、どんどん社会体験活動をしていこう」という前向きな取り組みへの意思表示も見られ、この研修がその助けとなったならば幸いです。

—今後、体験研修を受ける職員の心構えについて教えてください。

(山根さん)

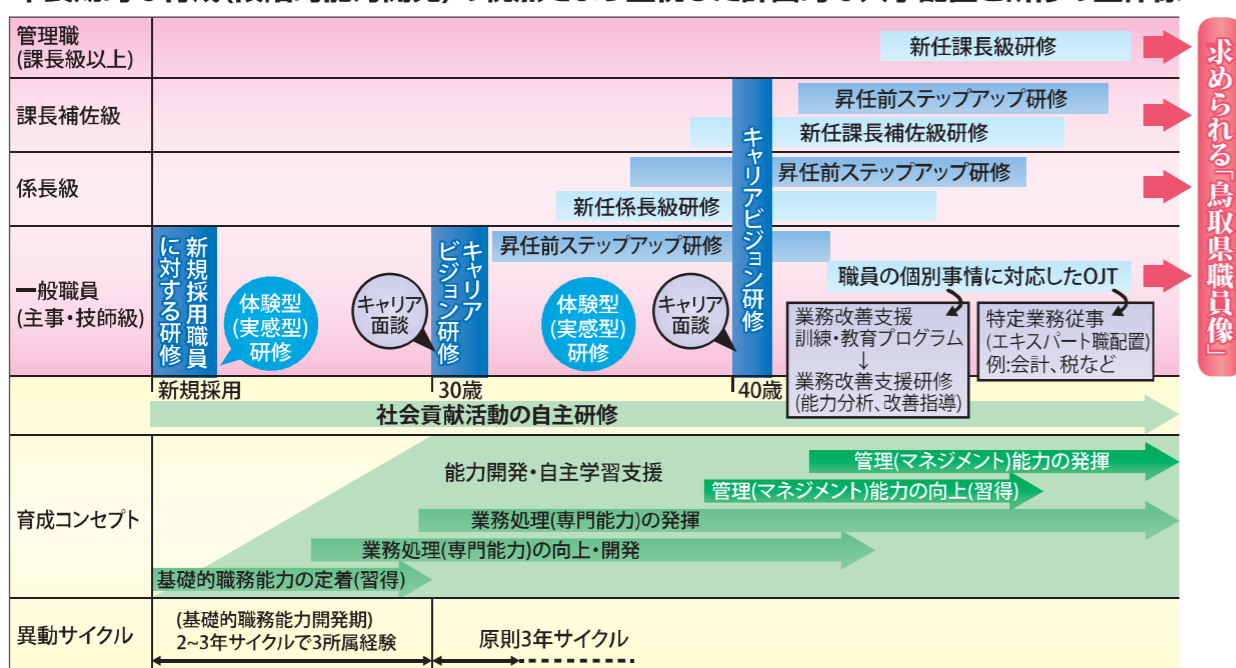
研修先での作業も大事ですが、それだけでなく、活動の目的や皆さんの「思い」をしっかり受け止めてほしいと思います。そのことで、自分たちの仕事にも何かしら反映されることになればなお良いですし、NPOと協働して仕事ができるということにつながるので、現場の実情をよく見てほしいと思います。



Kazushi Yamamoto

Nobumichi Yamane

中長期的な育成(段階的能力開発)の視点をより重視した計画的な人事配置と研修の全体像



次に、2013年度「県中堅職員社会体験研修」についての事例を2つ紹介します。実際に体験研修に参加した職員に、感想や手応えなど率直な意見を聞きました。

事例2

布絵本づくりを行うボランティア団体
「ちくちくチョッキン」(岩美町)
〔研修生〕県教育委員会事務局高等学校課
坂田博子さん



—研修先では、どのような活動をしましたか。

(坂田さん)

原画や原稿に合わせて、絵本に貼り付ける布の絵や文字を切り抜き、絵を縫い止め、文字の配置を考えてアイロンで止めて縫い付ける作業に携わりました。

—NPOの活動を通じて何を感じましたか。

(坂田さん)

とにかく、皆さんが本当にこだわり、楽しんでやっているなあと感じました。鈴なりの柿の木はいろんな色や布で表現され、文字はひと針ずつ縫い止められます。多くの方が手に取って読まれるものなので、耐久性も必要だし、手作りのぬくもりも感じられます。また、岩美町の民話が題材で、「こうしたら本物っぽく、当時の雰囲気が出るんじゃない?」と意見を出し合いながら、特に時代考証を重視しながら作っていたのが印象的でした。



地域の人が地域のために作り、それを地域の皆さんが実際に見るとい点が素晴らしいと思います。代表の城戸さんはかつて小学校の先生でもあり、手に取る子どもたちの気持ちを大切にされているなあと感じました。

—研修を通じて、NPO等に対する考え方について何か変わりましたか。

(坂田さん)

実際に活動している人に接し、ただ「これを手にする人のために、地元の皆さんのために」という思いがよく伝わり、これからもできることを協力していきたいと思いました。もっと受け手の気持ちに寄り添う意識を持って仕事をしないといけないと改めました。

—今後、体験研修でNPO等に関わっていく後輩職員に対して伝えたいことはありますか。

(坂田さん)

どんな団体であっても、すごく思いのある人が運営し、皆さんがその思いをもって一心にやっているの、代表者の気持ちに触れてほしいと思います。それが、振り返って「県民のために」という思いで仕事ができているか、自分自身の仕事への向き合い方を見つめ直す一つのきっかけになると思います。

事例1

まちづくりや地域おこしに携わるNPO法人
「養生の郷」(倉吉市関金町)
〔研修生〕県中部総合事務所生活環境局
友定晋也さん、矢信聡裕さん



—研修先では、どのような活動をしましたか。

(矢信さん)

2つのイベントに参加しました。「ざんぶらこっこ」では、関金のキャンプ場にある長さ800mの水路を子どもたちがゴムボートで下るのを、スタート地点やゴール地点で補助しました。また、小説「南総里見八犬伝」のもとになった里見忠義公の一行による「倉吉里見時代行列」では、実際に甲冑(かっちゅう)を着て、倉吉市役所付近や関金を歩きました。



—NPOの活動を通じて何を感じましたか。

(友定さん)

地域資源の二次的な利用というか、普段は思いつかない、現場の皆さんだからこそという発想の柔軟さと現場の大切さを感じました。また、代表者が「緑や自然を堪能してもらいたい」と話していたのが印象的でした。「ざんぶらこっこ」では、水路のゴール地点

からスタート地点へ歩いて戻り、その中で自然を見つけます。

—研修を通じて、NPO等に対する考え方について何か変わりましたか。

(矢信さん)

活動を人生の楽しみにしているところを強く感じ、これまでイメージが少し変わりました。また、里見忠義公が倉吉に縁があるなど、地域の歴史についてさらに知っておくべきだと思いました。

—今後、体験研修でNPO等に関わっていく後輩職員に対して伝えたいことはありますか。

(矢信さん)

NPOの皆さんと一緒に活動するときは、肩書など考えないスタンスがよいと思いますし、そのことで違う一面が見られると思います。

(友定さん)

現場に出て人と接することで、どんなことが起きてどんな反応が返ってきているのかを生身に感じることは、自分にとっても励みになります。「ざんぶらこっこ」では、単にボートを動かすだけでなく、「このへんが滑りやすいよ」などと細かな声かけ・配慮があり、そのような感覚を大事にしてほしいと思います。

